

< 日本平和委員会全国大会議案より >



矛盾を深めるブッシュの戦争政策と 追隨する小泉政権

県大会議案の国際・国内情勢は、日本平和委員会全国大会の方針をあてることにして、以下、日本平和委員会の当該部分を要約して掲載します。

国際情勢について

特徴のひとつはアメリカ覇権主義の危険な展開です。「世界五大陸に1000を越す基地を置くアメリカが、先制攻撃戦略をとり、世界平和の最大の脅威になっている」こと。「この戦略を押し進めるために地球的規模の「米軍再編」を進めている」とし、その内容は、「米軍を世界のどこにでも迅速展開、機動的な軍隊につくり変える。同盟国との軍事協力体制をつくりあげること」にあり、「その中軸に日米軍事同盟が位置づけられている」としています。

ふたつ目の特徴はアメリカの「アフガン、イラクで行った無法な先制攻撃戦争が破綻し」その一方で「国連憲章にもとづく平和で公正な世界をめざす流れが広がり」、「東南アジア諸国連合、上海協力機構、南米諸国共同体、アフリカ連合などの地域共同体が共通して国連憲章にもとづく平和秩序、紛争の平和的解決、各国の主権の尊重などを原則にした」運動が広がっていることにあります。

国内情勢について

小泉内閣5年間の政治的特徴はアメリカへの迎合・追隨の姿勢から国内政治を行う事にあります。そのひとつは「9条改悪に焦点を当て、日本をアメリカと

もに海外で戦争できる国にする、憲法改悪の動きを本格化して」いること。ふたつ目は日米軍事同盟の侵略的強化のため「日米軍事同盟を地球的規模で機能するものに変質・強化し」、米軍再編成を強化し、全国の自衛隊基地を「自由」に使用できるようにすることにあります。

一方「自治体・住民の意思を無視してアメリカの言いなりで基地強化・恒久化を押しつける日本政府に対する民主主義的反発」が起こっています。さらに関係地元住民だけでなく、「7千億に上るグアムへの沖縄海兵隊の移転経費をふくむ、3兆円にものぼる巨額な基地強化のための支出にも、国民の批判が高まっています」。

「こうした矛盾に着目し、この米軍基地強化に反対する自治体・住民ぐるみのたたかひの発展のために全力をあげましょう」と呼びかけています。

また、政府は急遽教育基本法の改悪を国会に上程し強行しようとしています。これは、現行基本法の「教育は不当な支配に服することなく」（十条）の条文を骨抜きにし、事実上、政府の教育への介入を可能にし、「愛国心」を国民に押し付け、“戦争に進んで参加する子ども作り”に道を開こうとする重大なたくらみです。

この後全国大会議案は・国民保護体制づくり・靖国問題・核兵器廃絶などと続きます。

日本平和委員会第56回全国大会 の代議員を募集します

6月17、18日に第56回全国大会が下記の要領で開催されます。茨城県平和委員会では代議員を募集します。応募者は6月5日までに事務局に連絡ください。

参加費用は参加分担金（5,000円）宿泊費（11,000円）合計16,000円 交通費（ガソリン代は別）が必要となります。費用については10,000円を県で補助します。車で参加することが便利です。

日時：6月17日(土)～6月18日(日)
開催地：群馬県利根郡みなかみ町
松の井軒(0278-72-3200)

日程：
第一日目

午後1時半～全体総会（開会）
午後5時半～分散会・各種委員
午後7時15分～夕食と交流会

第二日目

午前9時半～分散会
午後1時～全体総会（閉会）
午後3時終了



平和かわら版

平和新聞茨城版

438
月3回発行
2006.5.25

発行：茨城県平和委員会
〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806
E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



平和委員会（平和の会）に入会して、草の根平和運動に参加しませんか！



まもり活かそう憲法フェスタ

さくらのまち日立平和の会 岩間 雅美

5月3日の憲法フェスタには、手作りのゼッケンを作成し参加しました。

日立市からは会員5名で参加し、憲法9条を守ろうとアピールできたと思います。また、長い距離でしたが千波湖を一周し、貴重な経験をさせていただきました。

法学館の伊藤塾長のお話は良かったです。憲法とは何か、憲法と法律の違いとはのお話、戦争被害者としての立場からよりも、加害者としての立場が大事だというお話には考えさせられました。私たちはともすると、悲惨な戦争、ひどい目にあったという被害者の立場を優先させますが、それだけではアジアの人々との友好、戦争をなくす力には弱いと思います。現在も戦争に協力しているという認識を持つことが大事です。兵站は立派な軍事行動です。

太平洋戦争では、日本軍は武器、弾薬、食料輸送を無視して兵隊を送りました。その結果病气、飢餓でたくさん兵隊が亡くなり、また現地調達という略奪が横行しました。

現在日本は、米軍のため軍艦、飛行機に燃料を日本の税金で補給しております。相手から見れば、戦争に加担していると見られます。戦前も、自分の国では戦闘を行わなかったので、あまり戦争の悲惨さが実感できなかったのではと思います。

いま、論理的に考え、また、ものを言うことが大事だと思います。

一寄稿一

憲法記念日・市民の集い(土浦)の参加者から寄せられました

「映画 日本国憲法」をみて

土浦市 内田 節子

「憲法九条は世界の宝」という言葉を実感する映画でした。日本の外側にいる人たちからみた日本国憲法について、様々に語っているのですが、その中で一番印象に残ったのは、次の言葉です。日本は先の戦争でアジアの国々へのきちんとした謝罪をしていないが、九条こそが日本の謝罪の証となっている。これを変えることは、謝罪を否定すること。だから憲法改正は国内問題ではなく、国際問題だということ。やはり「戦争の放棄」は放棄してはならないのです。

また韓国の人の発言で、東アジアの平和は東アジアの国々の人々のプライドにかけて、自らの力で築くべきだというのがありました。アメリカに盲従する日本政府の人たちにプライドはあるのか。我が息子は「日本はアメリカの植民地なんだから」と半ばあきらめ顔ですが、やはり反対の声を上げ続けなければなりません。

日中韓の若者の間に民族主義が高まることを憂い、若者に「平和の感受性」を育てることが大事という発言もありました。戦争の直接体験を持たない私たちの世代を含めて、多くの人に、特に若者に広く見てもらいたい映画だと思いました。

映画上映のお知らせ

長編アニメーション作品

『アンゼラスの鐘』

会場 県民文化センター小ホール

日時 6/16(金) pm14:00とpm19:00 2回上映

6/17(土) pm19:00 有原誠治監督のトークショーと上映

入場券 一般1500円 子供・シニア1000円

経済的要求と一緒に

池貝平和の会 小川 隆

憲法改悪を阻止するためには、国民の過半数の反対勢力を組織しなければなりません。職場においても従業員の過半数の反対勢力を組織する必要があります。

職場では、労働組合の春闘要求アンケートの取り組みの中で、昨年「憲法改定」と「憲法9条改定」についての質問項目を設けてアンケートを取り組んできました。

「憲法改定」については、昨年は「反対」が48%、「賛成」が17%、今年は「反対」が53%、「賛成」が8%という結果でした。「憲法9条改定」については、昨年は「反対」が53%、「賛成」が20%、今年は「反対」が57%、「賛成」が6%という結果でした。「憲法改定」についても「憲法9条改定」についても、今年は昨年より「反対」が増加して回答数の過半数を超えましたが、「わからない」と答えている人が1/3以上もいます。

アンケート結果からもわかるように、職場で十分な取り組みができていないといえませんが、平和の会としてあるいは労働組合の力を借りて、これまで国民平和大行進や百里の初午まつりなどへの参加の呼びかけや宣伝を行なう中で、平和の大切さや憲法改悪が何を狙っているかなどを訴えてきました。また、「米軍機F15来るな!県民集会」や「まもり活かそう憲法9条・教育基本法茨城ネット鹿行地区集会」、「まもり活かそう憲法フェスタ」などへの参加を職場の仲間にも呼びかけてきました。

これからも、憲法改悪反対の世論を高めるとともに、会員の拡大にもつなげる取り組みをしていきたいと思っています。

事務局便

事務局に詰めている加藤さん。六月二十九日福島県から引継ぎ六月三十日から始まる原水爆禁止茨城県内平和行進に通しで参加する。地域の会員の皆さん、彼をよろしく面倒を見てください。お願いします。お願います。(ま)